

【五月の言葉（令和元年）】

見えないものに

生かされている

「見えないもの」とは、すぐそばにあるのに「気づかないもの」と同じ意味です。・・・たとえば、魚にとっての水。人間にとっての空気。魚も人間も、水や空気の存在に気づかなくても生きていけます。けれど、水や空気は絶対に不可欠なものです。

阿弥陀如来の本願や慈悲の心といわれるものの在り様は、空気のようなものなのです。「阿弥陀如来はどこにいて、どんな形をしているのか」と問う人は多いのですが、「空気はどこにあつてどんな形をしているのか」と問う人はいません。

阿弥陀如来の実体的な姿や形ばかりにとらわれ、目に見えない阿弥陀如来の願いをすでに受け、その真つ只中に生かされていることに気づかないでいるのです。

見えないものに“気づいていく”・・・いや“気づかされていく”。“生きていく”から「生かされている」の世界へ。

「仏に願う」から「仏に願われているんだ」の世界へ。

それが浄土真宗です。